

令和 8 年度 第2回 こども部会 会議録

【日 時】 令和8年8月21日(金) 10:00~12:00 美馬市役所 北館 1 階103

【参加者】 徳島県西部こども女性相談センター、発達障がい者総合支援センターアイリス
池田学園、多機能型通所支援事業所ひまわり、美馬市長寿障害福祉課
美馬市こども家庭センター、美馬市教育委員会、つるぎ町福祉課、つるぎ町保健センター
つるぎ町教育委員会、ピース、児童デイワンハート穴吹、こども発達支援事業所イノセント
相談支援事業所ワンハート、障害者支援センター小星園、障害者支援センターかしがおか
相談支援センターイノセント

(計 25 名)

【会議録】 相談支援センターイノセント

<会議内容>

1. 【研修会】発達障がいのあるこどもの子育てについて

○徳島ペアレント・メンター協会からペアレントメンター2名の方々にお越しいただき、発達障がいのあるこどもの子育てをテーマにご講演と意見交換を行った。

講師:A

- ・児童相談所の助言により「障がいの有無」ではなく「子どもの成長」に目を向けられるようになり心が軽くなった経験や学校連携における具体的な工夫・課題等についてお話をしていただいた。
- ・質疑応答では、母親の心情や関係機関との連携、家族関係について意見があった。家族間の調整については、家族だからこそ逆に理解が得られにくいという難しさがある。学校との連携については、やり取りの方法を工夫することで理解が進み、互いに協力しやすくなったという具体的なお話があった。

講師:B

- ・幼少期の不安や療育につながるまでの経緯、現在の様子についてお話していただいた。また、療育先での温かい言葉による心理的負担の軽減や学校連携での苦勞についてお話をしていただいた。
- ・質疑応答では、過去の子育てを振り返り、「今だったらこうしたい」という思いについての話やきょうだいへの関わり方についてもお話があった。

*関係機関に対して

- ・発達障がいの特徴として、「人の気持ちが分からない」と言われるが、分からないではなく、分かり方が違うのだと思う。学校の先生など専門職が親と子どもの間に入って調整をしてもらえたと思う。また、学校などで視覚支援を取り入れた環境(見える化)があると本人の安心につながると思う。

2. 情報共有

○多機能型通所支援事業所ひまわりについて

・提供サービス(児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護)や現在の利用状況等について説明。
現状として、職員不足や利用者の減少などから来年度の事業継続について検討中。今後、成人の受け入れの予定はないが、児童は2名ほど受け入れ可能。常勤の看護師、理学療法士を配置しており、医療的ケア児の受け入れ体制がある。痰吸引、経管栄養、機能訓練などの対応が可能。現在 1 名が利用。送迎は片道40分程度まで対応。

○新規通所支援事業所について

①児童発達支援・放課後等デイサービス ペンギン

・所在地:三好市三野町芝生字宮ノ久保 1288-9
・提供サービス:児童発達支援・放課後等デイサービス
・利用日時:火曜日～土曜日(平日 9 時～17 時、土曜日9時～16 時)
・送迎範囲:片道30分以内(要相談)
・現在の空き:水・金・土 各1枠

②キズナプラスあなぶき (令和8年10月開所)

・所在地:美馬市穴吹町三島舞中島 1833
・提供サービス:児童発達支援・放課後等デイサービス
・利用日時:月曜日～土曜日(平日 13:30～17:30、長期休暇10:30～17:30)
・送迎範囲:阿波市は伊沢、美馬市は片道15分位(要相談)

3. グループワーク

○研修会の感想

・発達障がいのある子育ての大変さを再認識した。家族間の調整における難しさを踏まえ、母親や家族の方針を確認する必要があると感じた。
・最近では情報を得やすい環境にあるため、発達検査を受ける前に家庭側で対策を取っているケースがあり、子ども本来の様子が見えにくくなっている。保護者に正しい知識を提供したいが、受け止め方によっては伝え方が難しいと感じることもある。
・当時は情報や資源が少なく対応に苦労されたが、情報が容易に手に入る現在は、情報過多によってかえって混乱してしまう保護者もいる。
・乳児健診での指摘は早期に保護者へ伝えられるが、就学直前では受け入れることが難しくなりやすい。日頃から状況を少しずつ共有していくことで、就学後の支援につなげていけるのではないかと。
・保護者に対して寄り添いや共感大切だが、正しい情報を伝えることも重要だと感じる。
・専門職は行動を見て子どもを判断してしまいがちだが、一人ひとりの個性や特性を捉えた上で、その子に合った関わり方や育て方を考えていくことが重要だと感じた。
・安心して生活を送っていくためには環境の調整(見える化、視覚支援)が大事だと感じた。
・学年が変わる時の申し送りの必要性和それに伴い、「みまこファイル」の活用について意見があった。
・「人の気持ちが分からない」→「分かり方が人とは違う」という視点が勉強になった。
・健診の際に園での困りごとに対して、療育を進めているが、子どもの特性や理解を保護者と一緒に考えていけたらと思った。教育支援委員会との連携も必要。

＊次回、令和8年11月を予定。内容は中学・高校の支援が必要な生徒へのアプローチや就労・進学について(就労部会とのコラボで開催)